



土作り

本格的な冬を迎え、家庭菜園は越冬野菜だけとなり、冬の休閑期に入り、空き畑が多くなります。この機会を捉え、しっかりと土作りし、次年度に備えましょう。

板木技術士事務所 板木利隆



次年度に向けた土作りについて

野菜の根が健全に伸びるためには、土の水はけと通気性が良いことと、水持ち（保水力）が良いことが重要な条件となります。

土には、細粒の粘土と粗粒の砂の割合が異なる単粒構造と団粒構造があります。

団粒構造にすると孔隙率（こうげきりつ）が高く、空気や水を適度に含み根がよく伸びますが、その状態も数年間野菜を作り続ける、と次第に痩せて単粒構造となり、

根があまり伸びない

根が深く広く張るためには深層まで条件を整えることが大切です。その目安として、直径8〜9mmの棒を畑土に差ししたとき、あまり力を加えずに入る作土層が20cm以上あることです。力いっぱい差し込んで測る有効土層が60cm以上あれば申し分ありません。一般にはこれでも不十分なことも多いですが、深耕することによりここまで改善することができません。

畑起こし、粗大有機物を入れる時期は寒冷の冬が一番です。それは他の作業が暇で、畑が空いている

根があまり伸びない

根が深く広く張るためには深層まで条件を整えることが大切です。その目安として、直径8〜9mmの棒を畑土に差ししたとき、あまり力を加えずに入る作土層が20cm以上あることです。力いっぱい差し込んで測る有効土層が60cm以上あれば申し分ありません。一般にはこれでも不十分なことも多いですが、深耕することによりここまで改善することができません。

畑起こし、粗大有機物を入れる時期は寒冷の冬が一番です。それは他の作業が暇で、畑が空いている

【単粒構造】

空気や水が入り込む孔隙（隙間）が少なく、作物の根がよく伸びない

【団粒構造】

団粒構造にすると空気や水を適度に含むことができ、作物はよく育つ

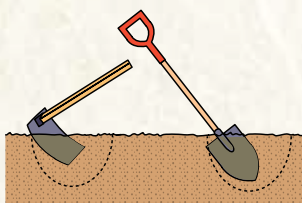
るだけではなく、掘り起こした下層の土を上面に出し、厳しい寒気にさらし風化させることにより、物理性が改善され、病原菌や害虫、雑草の種子を死滅、軽減する効果が大きく発揮されるからです。

作業の手順は、前作の残りがすや病害虫の被害株、残根などをきれいに切り除き、堆肥などの粗大有機物を畑全面にばらまいてから耕します。60cm以上も深耕する場合には先に畑起こししてから、次の耕うん時に粗大有機物を施すのが良法です。

耕した畑土はなるべく表面に凹凸があるまにしておき、寒気に触れる面を大きくします。

土壌の酸性度も冬の間に調べ、pH 6.0〜6.5程度に調整しておくことが大切です。酸性を改良する消石灰の施用量は、砂質あるいは腐植の少ない土壌では少なく、黒ぼく土では多くを要するので、施用量を誤らないよう注意しましょう。毎年むやみに与え過ぎると弊害を生じる恐れがあります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



1〜2年に1回ぐらいいは30cm以上深く耕す

JAグリーン津店おすすめ！春ジャガイモの栽培



JAグリーン津店 城チーフ

ジャガイモは春と秋に作れますが、秋作は病害が多く収量も少ないので、春作がおすすめです！

① 種イモの準備

種イモは必ず専用検査済み（ウィルスフリー）のものを用意しましょう。JAグリーン津店では3品種の種イモをご用意しています。各切片によい芽が均等につくように切断し、切り口を乾かすか、草木灰を塗布して腐敗を防ぎます。



キタアカリ オトマリ メークイン

② 畑の準備

ジャガイモは連作を嫌うので3〜4年はジャガイモを含むナス科（トマトなど）の野菜を育てていない場所を選びましょう。土壌はpH 5.0〜5.5の弱酸性の土壌を好むので強い酸性の土壌には石灰を入れて調整します。石灰を多く入れ土壌がアルカリ性に傾くとジャガイモの表面に褐色のかさぶたのような斑点ができる「さか病」が発生しやすくなります。そうか病が多発する土壌では、種イモを植える前にフロンサイド粉剤を散布すると効果的です。



③ 植え付け

元肥を入れ7〜8cm土をもどしたところに種イモを切り口を下にして置き、7〜8cm覆土し軽くクワで押さえます。黒マルチを使うと、雑草を抑制し、地温を上げて収穫を早めることができます。



④ 芽かき

一つの種イモから5〜6本の芽が出てきます。すべての芽を成長させると小さいイモばかりになってしまうので、芽かきをして芽の本数を調整します。

⑤ 追肥・土寄せ

肥大期にカリウムが必要となりますので、肥大期にはカリウムを追肥することが必要です。畝に沿って肥料を施し、通路の土を株元へ4〜5cmの厚さに寄せます。土寄せが不足すると、イモが日光に当たり緑化し、品質を損ねますので注意が必要です。



⑥ 病害虫防除

ナス科のジャガイモには、ウィルス媒介するアブラムシや、葉を食害するニジュウヤホシテントウ（別名テントウムシダマシ）などが発生しやすいです。アディオン乳剤で防除しましょう。

